

八楽溜

(はちらくだめ)



全景



堤の桜

江戸時代から続く“オオギ漁”



ため池の概要

ため池の所在地

滋賀県東近江市

ため池の特徴

八楽溜は、元和2年(1616年)帰農した武士たちが原野を開墾して開いた大沢地区にあり、周囲の村から用水供給を受けることができなかったため、彦根藩に願い出て築造してもらったものです。

その後も、池の補修工事は手間賃からクギ1本に至るまで藩の費用で賄われたことが古文書に記録されており、大沢の農業の礎として現在も水田を潤し続けています。

池は、中央にある弁天島や堤で咲き誇る桜とともに、周囲の田園風景にとけ込み美しい農村景観を形成しています。

平成10年には、江戸時代から4年に一度行われてきた伝統漁法の「総つかみ・オオギ漁」が復活しました。地元の「郷づくり活動」の一環として行われたもので、池の底に溜まった泥を巻き上げて流す「泥さらえ」とともに魚つかみが行われます。

親水公園では、「八楽夏まつり」「八楽溜水上運動会」が行われ、近在から多くの人々が訪れる場所となっています。

また、池にはシラサギ、カイツブリ、マガモなどの鳥類をはじめ、葦、ガマなどの植物、魚類など合計106種の生物が確認されています。

関連情報

ほっと・おおざわホームページ
<http://members.e-omi.ne.jp/oozawa/>